

西芳寺周辺エリア

～浄往寺・地蔵院・月読神社・華厳寺～



視点場（境内）



特に着目する通り

エリア概要

- 松尾山際地域では、松尾大社が、桂川の流れが南北から東西方向へと屈曲する、いわば水上交通の要衝にあたり、また山陰道にも近いなど陸路にも恵まれたところに立地している。その山すそを南下すると、月読神社、西芳寺、華厳寺（鈴虫寺）、さらには地蔵院などの、それぞれによく知られた社寺が並んでいる。

西芳寺（世界遺産）

奈良時代、聖武天皇の詔により、行基菩薩が畿内四十九院の法相宗の寺として開山した。開山前の飛鳥時代には、西芳寺があった土地には聖徳太子の別荘があったといわれている。

平安時代初期には弘法大師が一時住し、鎌倉時代初期には法然上人が浄土宗に改宗。兵乱による荒廃の後、松尾大社の宮司藤原親秀の招請で、暦応2年(1339年)に当時の高僧であり作庭の名手でもあった夢窓國師が禅寺として再興した。



西芳寺（庭園）からの眺望



西芳寺門前一带

明治22年、松室村と上山田・松尾谷・下山田・御陵の各村が統合して松尾村が成立した。⁶⁾

道沿いに3つの集落があり、社寺が南北に直線状に分布していることがこの地域の特徴である。

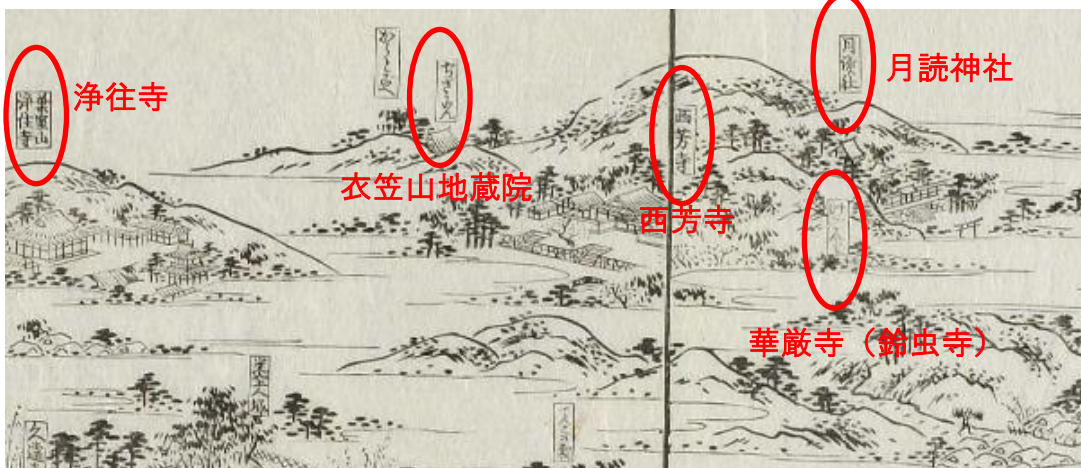
伝統的民家が残り、道路に対して庭を見せるように手入れされた「作り庭」が分布している。⁷⁾



西芳寺門前の町並み



西芳寺川



都名所図会「月読社（月読神社）」（国際日本文化研究センター所蔵）

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

浄往寺

葉室山と号し、黄檗宗。

本堂は東向きである。現在の本堂・開山堂は元禄2年黄檗宗に改めたときのものである。²⁾



衣笠山地蔵院

応安元年(1368年)に、西芳寺の南に、夢窓の弟子を開山とする地蔵院が創建されており、夢窓門派の禅院が南へ進出してきた。³⁾



※

華厳寺（鈴虫寺）

近年多数の鈴虫を飼い、鈴虫寺ともいわれる。妙徳山と号し、臨済宗永源寺派。⁴⁾



月読神社

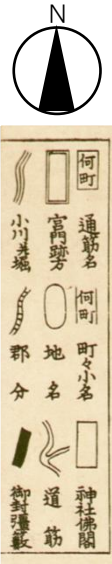
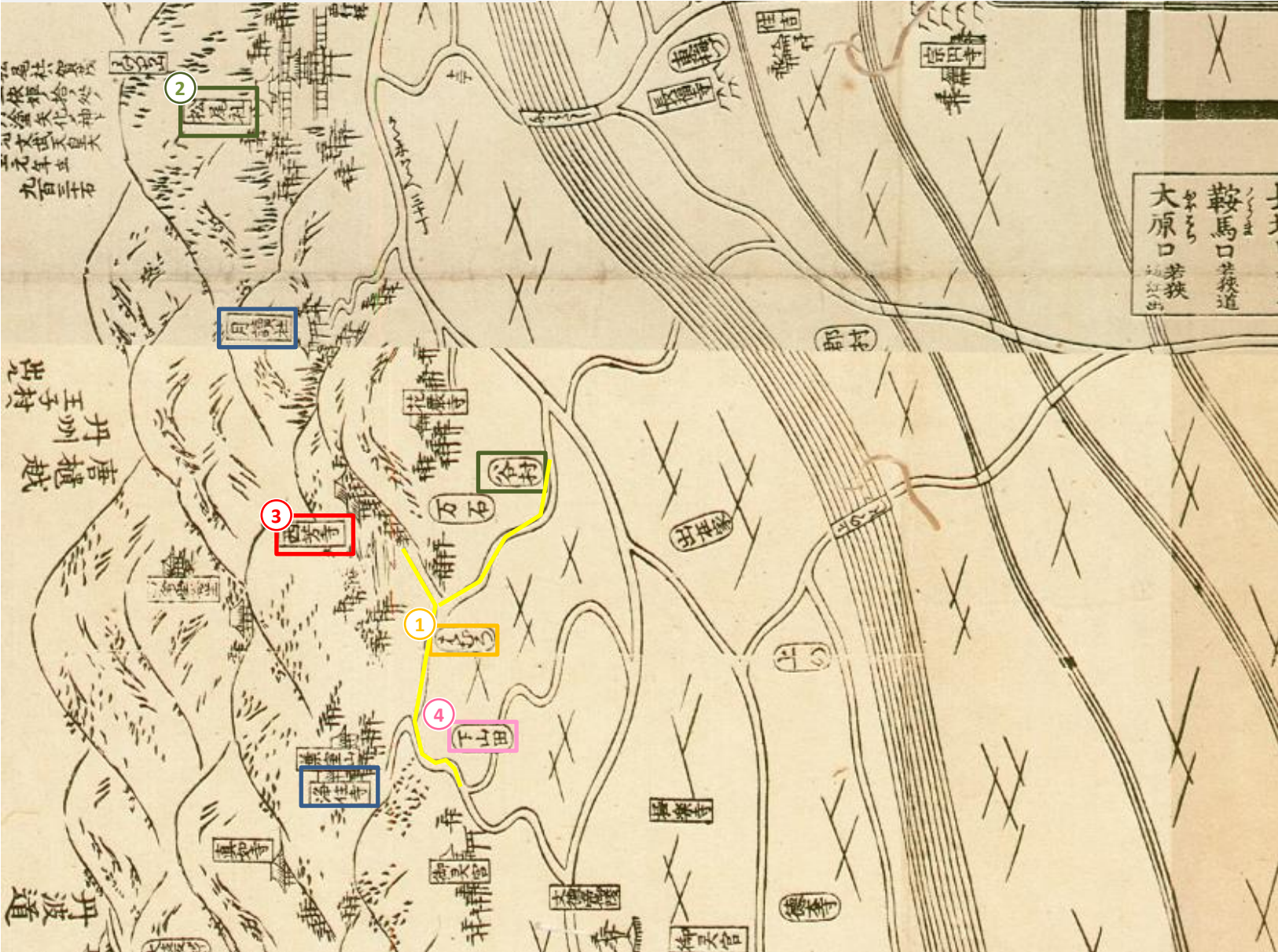
856年に月読社は、現在地に遷された。月読社は江戸初期から松尾社の摂社となっている。⁵⁾



2

エリアの土地利用の変遷（1）

明治2年(1869年)（上地政策による境内地減少前）



京町御絵図(明治2年)

① 松室村

当村域の歴史は月読社を軸として展開した。856年に月読社は、現在地に遷され、ここが桂川沿岸と西芳寺川河口にはさまれた肥沃な地帯として、早くから開発の手がつけられていたことを示すものであった。

江戸時代には、当村域は松室村とよばれるようになった。月読社は江戸初期から松尾社の摂社となっている。総高のうち、その七割が松尾社領によって占められており、松尾社領としての性格が強かったことがうかがえる。

さらに、当村同様松尾社神領が村高の大半を占める、松尾谷村等との関係もより深まり、ともに桂川と西芳寺川の合流地点付近の堤修理を行った例がみられる。¹²⁾

② 松尾谷村

松尾谷村の呼称は、明治3年に西芳寺門前が合併してからのものであり、近世の郷帳類には一括して「谷村」と記されている。西芳寺境内から裏山にかけて古墳時代後期の43基をこえる小円墳が群在しここは墳墓の集中する地であった。古代において秦氏が松尾社を創基すると、南側の当該地域一帯は社領となった。また、西芳寺川・桂川の堤防の護岸工事などにおいて、松室などの近隣の諸村と協力し、その維持につとめている。

明治3年ごろの戸数は124戸で、人口は543人。ほぼ専業農家で、松茸や菜種なども産出している。¹³⁾

③ 西芳寺

奈良時代、聖武天皇の詔により、行基菩薩が畿内四十九院の法相宗の寺として開山した。開山前の飛鳥時代には、西芳寺があった土地には聖徳太子の別荘があったといわれている。平安時代初期には弘法大師が一時住し、鎌倉時代初期には法然上人が浄土宗に改宗。兵乱による荒廃の後、松尾大社の宮司藤原親秀の招請で、暦応2年(1339年)に当時の高僧であり作庭の名手でもあった夢窓國師が禅寺として再興した。

○ 地藏院（次頁地図中記載）

西芳寺と同時期に、西芳寺の南には、夢窓の弟子を開山とする地藏院が創建されており、夢窓門派の禅院が南へ進出してきたといえよう。¹⁵⁾

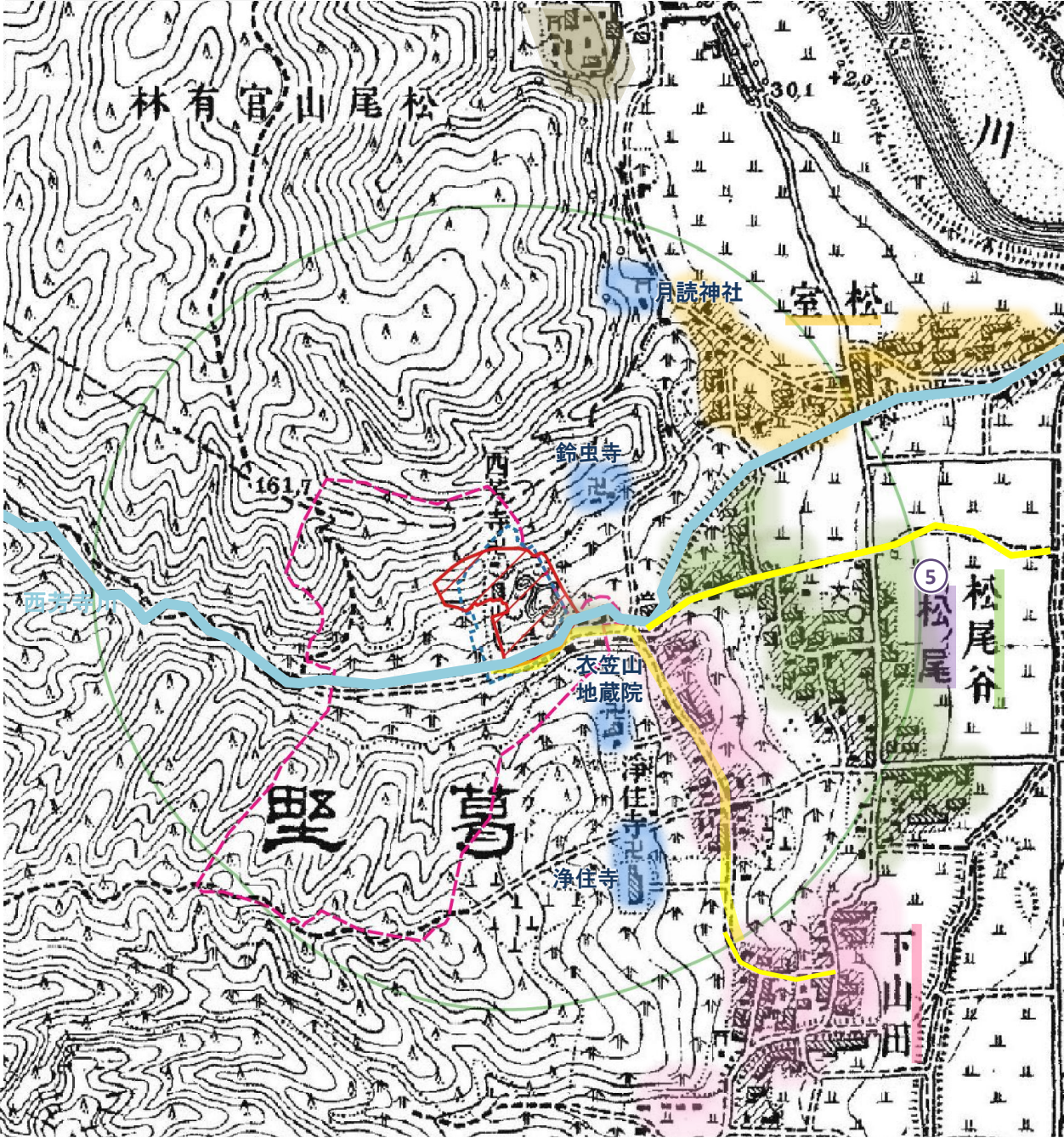
④ 下山田村

古墳時代の遺跡では、南部の台地に5世紀末から6世紀前半にかけての首長墓と推測されている古墳が、また北部には古墳時代後期の群集墳である衣笠山古墳群がのこり、古くからの開発がうかがえる。¹⁶⁾

明治初頭の下山田村の戸数は94戸で人口は471名であった。¹⁷⁾

エリアの土地利用の変遷（2）

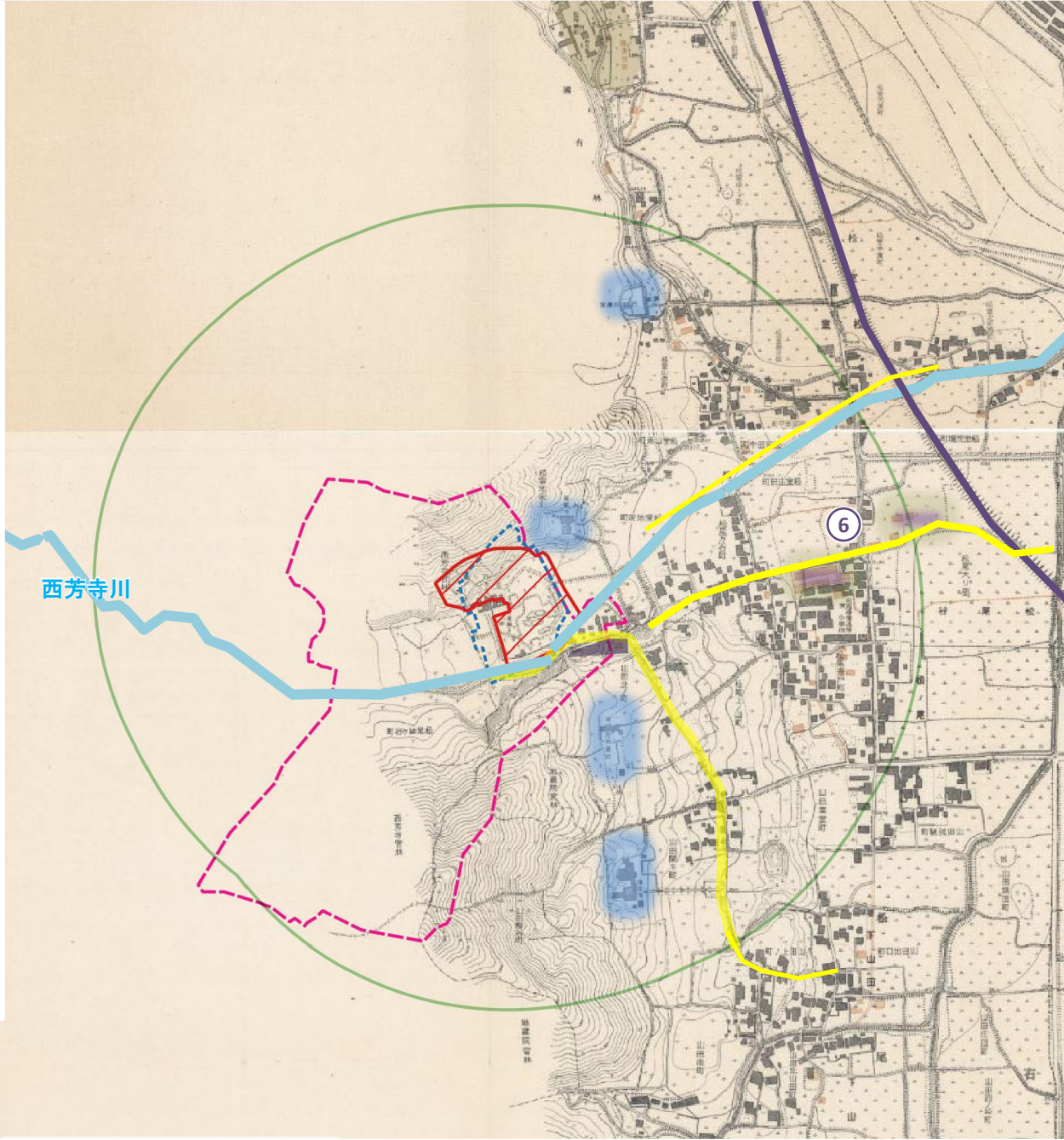
大正元年(1912年)



明治16-18年時点の境外地 近景デザイン保全区域 資料:正式地形図(大正元年)
明治16-18年時点の境内地 視点場(境内) (国土地理院所蔵)
特に着目する通り 画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑤ 松尾村
明治22年、松室村と上山田・松尾谷・下山田・御陵の各村が統合して松尾村が成立した。¹⁸⁾
西芳寺の東側も市街化していることが分かる。

昭和28年(1953年)



昭和10年都市計画図の内容 資料:京都市都市計画基本図(昭和28年)
昭和28年の修正測図 (京都市都市計画局(京都市指令都企計第90号))
画像:立命館大学アート・リサーチセンター

⑥ 松尾村
山林経営も近代化が進められ、材木の搬出に必要な設備の共同運営のため、大正15年には西芳寺土工森林組合が設立された。¹⁹⁾
昭和3年の新京阪電鉄(現阪急電鉄)嵐山線の開通などにもなう交通網の発達によって、京都の郊外地として宅地化も進んだが、浄住寺や地蔵院、さらに古い民家の建ちならぶ、落ち着いたたたずまいは、往時の葉室の里の面影をしのばせる。²⁰⁾
西芳寺の南側も市街化が進んでいる。

西芳寺

西芳寺は、天平年間（729～749）に僧行基が開いたと伝えられ、その後暦応2年（1339）に夢窓疎石が禅宗寺院として復興したものである。復興当初は、平地部に2層の楼閣の瑠璃殿をはじめとする庭園建築と花木に彩られた池庭を、また山腹には洪隠山と呼ばれる枯山水石組と座禅堂指東庵を配し、さらに山頂の展望地点には縮遠亭を建てて、これらの建物と変化にとんだ地割を石組で飾った庭とが華やかな風景を呈していたと伝えられている。

文明元年（1469）、兵火により建物は失われたが、庭園は夢窓疎石が整備した地割と石組が苔に覆われながら保持されており、荒廃した後の姿も名園と評価されている。なお、現在残る茶亭の湘南亭は16世紀末から17世紀初頭に建てられたものである。

この庭園は、建築と庭園との一体化、確実な手法の石組、眺望という視点など、前代までの庭園にはみられない形式が取り入れられており、鹿苑寺庭園、慈照寺庭園をはじめ後世の庭園に大きな影響を与え、日本庭園史上重要な位置を占めている。

西芳寺はこの西芳寺庭園が特別名勝に指定されているのに加え、16世紀末に茶亭として建てられた湘南亭（本家、待合及び廊下）が重要文化財建造物に指定されている。²¹⁾

また、平成6年(1994年)には、UNESCOの世界文化遺産「古都京都の文化財」の1つにも登録されている。

文化財

国指定重要文化財	西芳寺湘南亭 本家	2	西芳寺湘南亭 待合及廊下	4		
国指定史跡及び特別名勝	西芳寺庭園	259				

[国指定重要文化財]

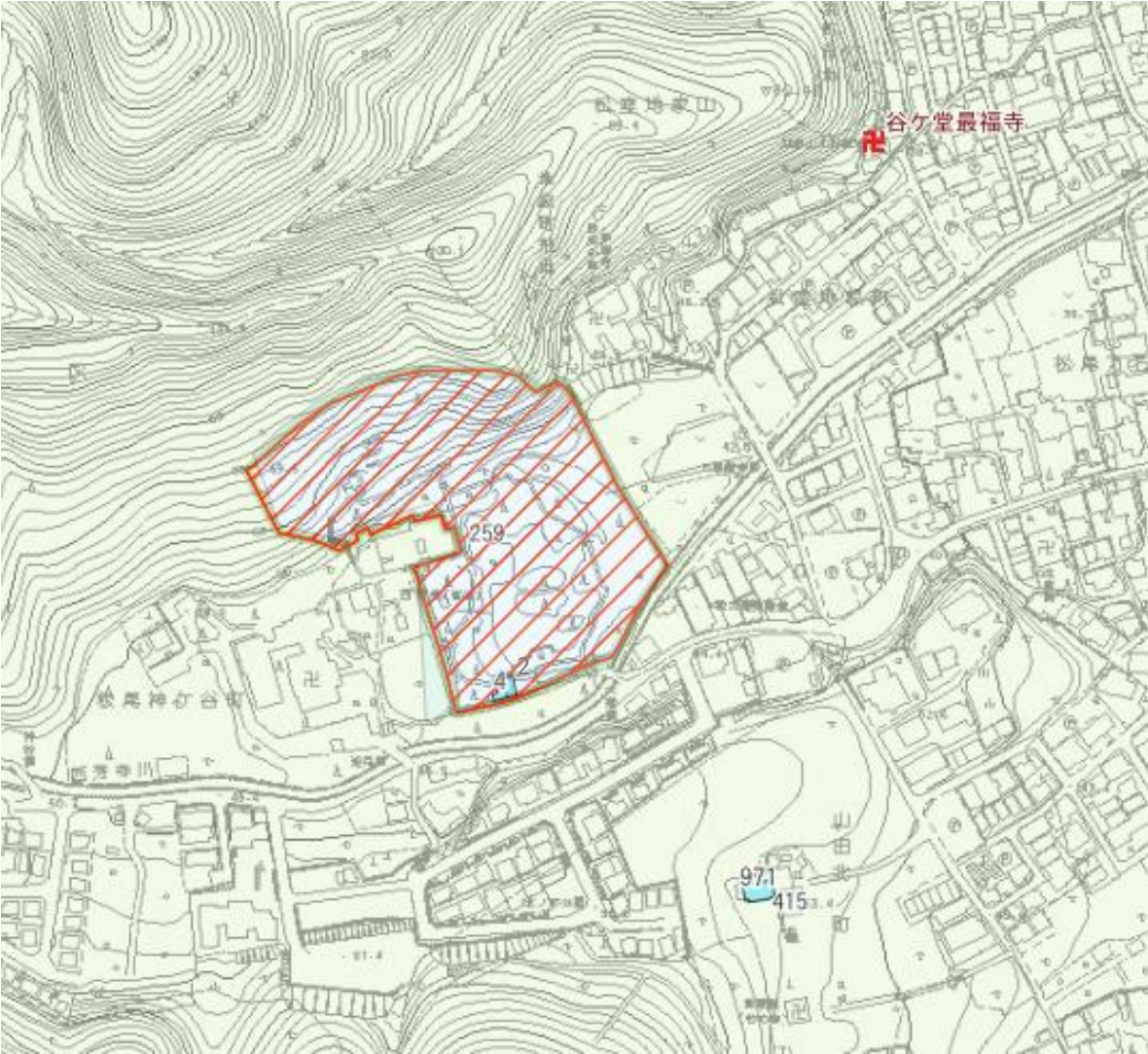


湘南亭 本家 湘南亭待合及廊下

[国指定史跡及び特別名勝]



庭園※



※ 詳しい地図情報は、京都市景観情報共有システムをご参照ください。

【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等

樹木

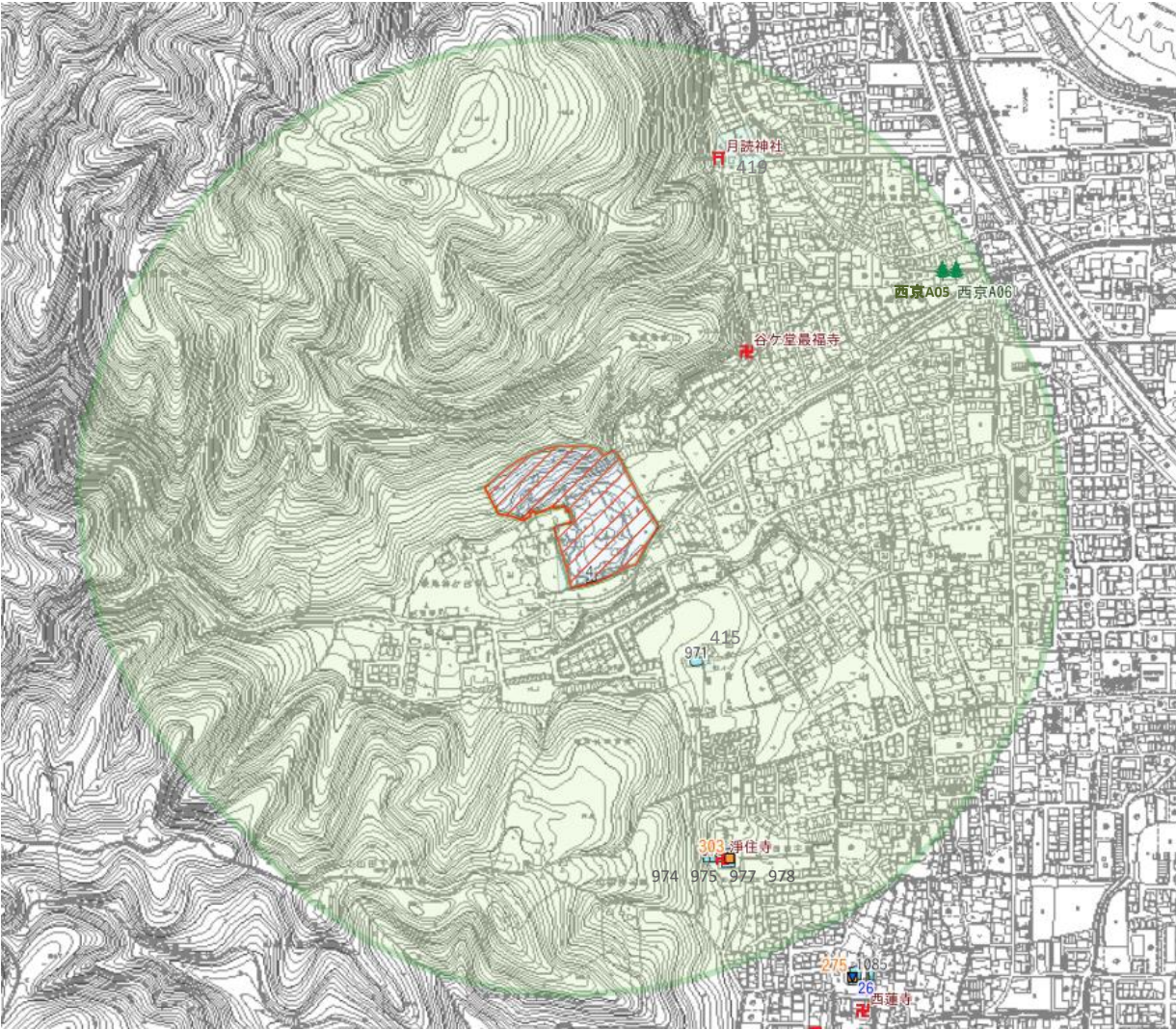
天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

※：（画像）京都府地図情報統合型地理情報システム（GIS）

5



【凡例】

視点場（境内）

視点場（参道等）

近景デザイン保全区域

建造物・庭園

景観重要建造物・歴史的風致形成建造物

歴史的意匠建造物

界わい景観建造物

京を彩る建物や庭園

文化財（建築物）

文化財（史跡・名称）

国土地理院社寺データ等 ※

樹木

天然記念物

保存樹・区民の誇りの木

※ 国土地理院の数値地図2、500に掲載の社寺データと、平成15・16年発行のゼンリン住宅地図の1、000m2以上の社寺データ

地蔵院

[市登録文化財(方丈)、市登録名勝(庭園)]

西芳寺川南岸の衣笠山山麓にあり、東方に京都盆地を望む。山号は衣笠山。俗に谷の寺蔵と称され、また竹の寺ともいう。臨済系単立寺院。本尊は地蔵菩薩。²²⁾

方丈
市登録

庭園
市登録

松尾大社

※

松尾山を西に負い、前面に桂川（保津川）を隔てて京都盆地が展開する。「延喜式」神名帳に載る葛野郡の「松尾神社二座（並名神大、月次相嘗新嘗）」とある社で、祭神は大山咋神と市杵島姫命。本朝22社の一。旧官幣大社。昭和25年（1950）松尾神社の称を松尾大社と改める。²³⁾

松尾月読神社

[市指定史跡(境内)]

境内
市指定

松尾大社南約400メートルの地にある同社の摂社。「延喜式」神名帳に載る「葛野坐月読神社（名神大、月次新嘗）」にあたる。祭神は「旧事本紀」にいう壱岐県主祖天月読命（あめのつきよみのみこと）。²⁴⁾

華厳寺(鈴虫寺)

※

西芳寺川の北岸、通称延朗山の中腹にある。妙徳山と号し、臨済宗永源寺派。本尊大日如来。江戸中期の僧鳳潭が最福寺の故地に開創。近年多数の鈴虫を飼い、鈴虫寺ともいわれる。鳳潭は南部六宗の一である華厳宗の復興を願い、享保8年（1723）当寺を創建して大華厳寺と称したが、伽藍の拡張は未完成のまま元文3年（1738）没した。下って慶応4年（1868）慶厳が入寺して臨済宗に改めたので、慶厳を中興開山とする。

法会は4月26日の鳳潭忌、11月21日の慶厳忌。²⁵⁾

※：（写真提供）京都市観光協会・ヨコヤマ写真事務所

6

西芳寺周辺のその他の歴史的資産

■ 浄住寺 [市指定文化財(本堂等)、市指定名勝(庭園)、京都を彩る建物や庭園]



本堂 市指定
■303



庭園 市指定

唐櫃越の入口近く、地蔵院南方200mに位置する。葉室山と号し、黄檗宗。本尊如意輪観音は中興の祖である鉄牛が購入した天竺仏と伝える。草創に関しては、弘仁年中（810-824）嵯峨天皇の勅願寺とする説、また野寺常住寺を当寺に擬する説もあるが、

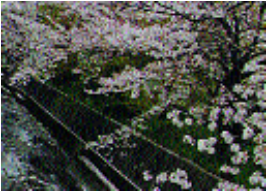
いずれも根拠は薄い。やや確実考えられる「感身学正記」によれば、弘長年間と（1261-64）中納言葉室定嗣が出家して定然と号し、奈良西大寺の叡尊を請じて隠棲したによるとされる。当時は戒律弘教の道場で、文永九年（1272）7月定嗣卒去の後は同家菩提寺となった。

元禄2年（1689）黄檗の鉄牛道機が葉室孝重の援助により伽藍僧堂を整備し、真言律宗から黄檗宗に改めた（山城名勝志）。現在の本堂・寿塔などはこのときのものである。²⁶⁾

■ 樹木等

ソメイヨシノ：西芳寺川 [区民の誇りの木]
■西京A05

西芳寺川は烏ヶ岳を水源とし、西芳寺と地蔵院の間を抜けて、松室北河原町で桂川に合流します。華厳寺橋から西芳寺橋にかけての川沿いは桜並木になっていて、どの木も年月を経て大木に育っています。



イロハモミジ：西芳寺川 [区民の誇りの木]
■西京A06

春はソメイヨシノ、秋はイロハモミジが、季節ごとの自然美を演出します。



景観の特性と形成方針（京都市景観計画 抜粋・要約）

嵯峨嵐山風致地区

【概況】

当地区は、山越・宇多野地域、梅ヶ畑地域、車折神社周辺、北嵯峨、嵯峨野、清滝、高雄、嵐山及び嵐山南地域、松尾山際地域、梅宮大社の参道、桂等から構成されている。
山越・宇多野及び梅ヶ畑地域の宅地は、敷地規模が大きく、緑化が行き届いており、車折神社周辺は、神社のこんもりとした樹林と周辺宅地の道路側緑化が見られる。また、北嵯峨・嵯峨野地域では、遍照寺山のなだらかな山景、その周りに平坦に広がる農地、さらに、豊かな敷地内緑化等を合わせて、質・量共に優れた緑が見られる。清滝及び高山寺・高雄については、四季を彩る木々や林業による美しい植林に代表されるように、森林による自然景観が維持され、宅地側についても周辺の恵まれた自然と一体となって深山の趣を感じさせる魅力ある緑豊かな景観を形成している。

【良好な景観の形成に関する方針】

●松尾の山際の眺望景観、西芳寺周辺の景観

松尾の山際は、山並みが急傾斜で立ち上がっているため、山際の眺望景観の保全、建築敷地の桂川側の緑化や建築物の形態・色彩等のコントロールが重要である。また、松尾大社の参道部の沿道景観の保全、西芳寺周辺の景観対策、特に、その南側山ろく部の土地形質の変更や建築物等の和風デザイン等の規制の強化を図る。



1) 西芳寺



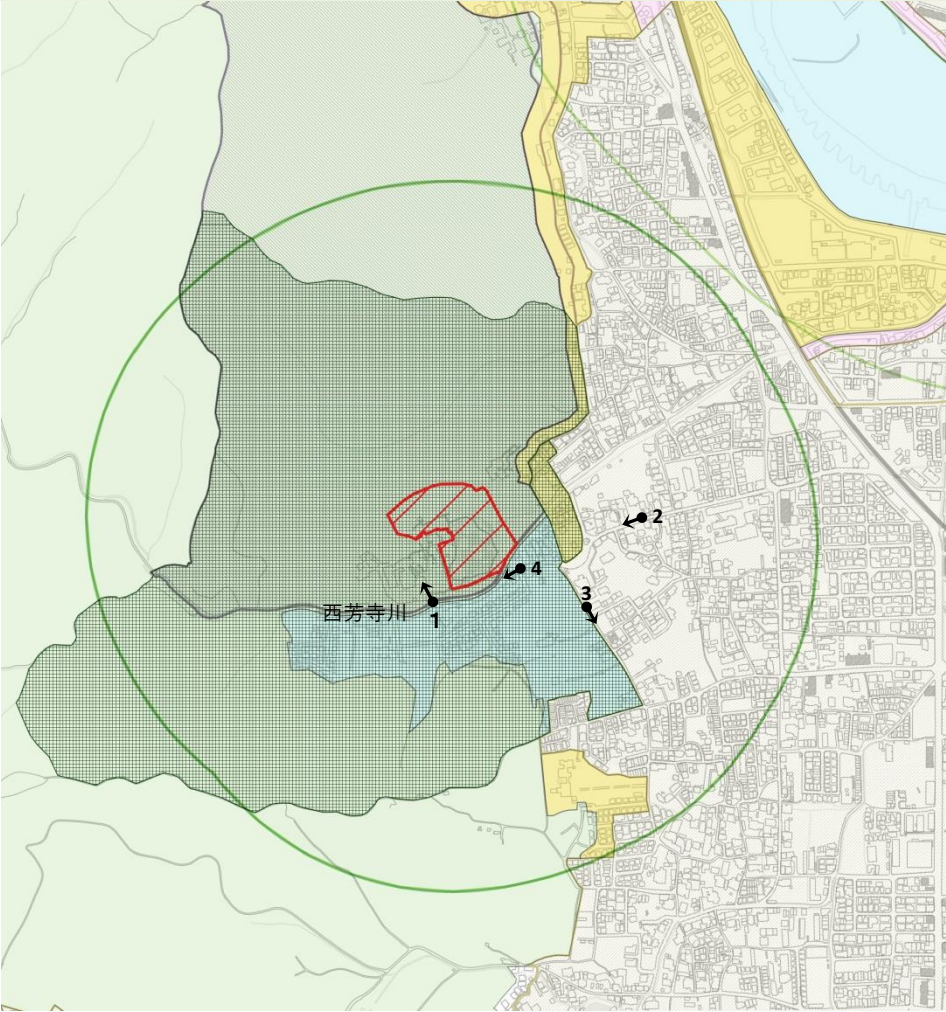
2) 西芳寺参道



3) 西芳寺南側の宅地



4) 西芳寺南側の宅地



【凡例】	
眺望景観保全区域	景観地区
視点場（境内）	山ろく型美観地区
視点場（参道等）	山並み背景型美観地区
近景デザイン保全区域	岸边型美観地区
風致地区	旧市街地型美観地区
風致地区第1種地域	歴史遺産型美観地区 一般地区
風致地区第2種地域	歴史遺産型美観地区 歴史的景観保全修景地区
風致地区第3種地域	歴史遺産型美観地区 界わい景観整備地区
風致地区第4種地域	重要界わい景観整備地域
風致地区第5種地域	沿道型美観地区
風致特別修景地区	市街地型美観形成地区
建築物修景地区	沿道型美観形成地区
山ろく型建築物修景地区	
山並み背景型建築物修景地区	
岸边型建築物修景地区	
町並み型建築物修景地区	
その他	
伝統的建造物群保存地区	
歴史的風土保存地区	
歴史的風土特別保存区域	

※ 詳しくは、京都市景観情報共有システムを御確認ください。

(資料)

1) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第15巻 西京区. 平凡社. 1994. p.112
2) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.350
3) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第15巻 西京区. 平凡社. 1994. p.113
4) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.224
5) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第15巻 西京区. 平凡社. 1994. p.94-p.95
6) 同上、 p.96
7) 山崎正史、川道大輔 立命館大学理工学部.西芳寺バッファゾーンの再検討
8) 京都市 編. 史料 京都の歴史. 第15巻 西京区. 平凡社. 1994. p.94、 p.95
9) 同上、 p.114
10) 同上、 p.130
11) 同上、 p.132
12) 同上、 p.94
13) 同上、 p.114
15) 同上、 p.113
16) 同上、 p.130
17) 同上、 p.132
18) 同上、 p.96
19) 同上、 p.114
20) 同上、 p.132
21) 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 千年の都 世界遺産. 古都京都の文化財(京都市・宇治市・大津市). 第22回世界遺産委員会支援京都実行委員会. 1998. p.145
22) 平凡社. 寺院神社大事典. 1 京都・山城. 平凡社. 1997. p.311
23) 同上、 p.651
24) 同上、 p.655
25) 同上、 p.224
26) 同上、 p.250